

香美市立美術館

アートの窓



宮崎進・角田和夫 二人展

シベリアから平和を考える

9月23日(土)～10月22日(日)

第二次世界大戦後、シベリア奥地の捕虜収容所で「生か死か」の極限状態の体験を、平面や立体作品として発表し続け、国際的に高い評価を受けている現代美術界を代表する作家・宮崎進。

そして、「ニューヨーク地下鉄ストーリー」で林忠



「ラーゲリの壁(コムソモリスク第3分所)」宮崎進

昭和二十年八月十五日、戦争が終りました。しかし、中国北部(旧満州)で敗戦を聞いた日本軍将兵と一部の民間人は、行く先も告げられないまま、軍事捕虜として広大なシベリアに点在するラーゲリ(旧ソ連の強制収容所の略称)に送られ、過酷な労働を長年にわたり強いられたのです。その中で生き抜き、日本に帰国した画家・宮崎進は、何を目撃したのでしょうか。

【関連企画】

角田和夫(写真家)・青木淳(高知女子大助教授)

ギャラリートーク(日時=9月23日(土)13時30分～)

「戦争を語り伝え、平和について考える」

～戦争体験者によるお話～

・公文寛伸さん(日時=10月13日(金)10時～、14時～)

・岡村光治さん(日時=10月15日(日)14時～)

・山本太幸さん(日時=10月22日(日)14時～)

写真家・角田和夫は、六十七歳で亡くなった父親の、旧満州での軍隊生活と敗戦後のシベリア抑留を経て帰国するまでをつづつた手記を読み、父親のかつての体験を追う旅に出ます。そこで出会った現在のシベリアをカメラのレンズを通して写し出しています。

会期中は、「平和を考える」ためのさまざまな関連企画を準備しています。市内の多くの皆さまにご覧いただきたい展覧会です。ご来館をお待ちしています。

(館長・北 泰子)

「星祭りと旧七夕祭り」を終えて

七月二十七日から三十一日まで開催した「星祭りと旧七夕祭り」が無事終了しました。

飾り付け当日には猪野々老人クラブの皆さん十二人が協力くださったり、吉井勇の見た昔ながらの星祭りを再現しました。



昔の七夕飾りを再現

笹竹に縄を張り、自宅で作った野菜やホオズキ、反物などを捧げ、皆さん思い思いに短冊を書いて飾りました。色とりどりの短冊が風に吹かれ、風情のある山里の風景がそこにありました。来館者の方の昔を懐かしがる声や、お孫さんと短冊を書いて楽しむ光景なども見られ、日本文化の良さを一層実感する行事となりました。

また、短歌・俳句の投稿作品も五十九点集まり、星祭りの写真とともに八月いっ

ばい館内にて展示しました。飾り付けをしてくださった方や投稿してくださった方、たくさんのご参加ご協力、本当にありがとうございました。

星祭りは来年以降も続けていきたいと思っておりますので、次回開催のときもぜひお越しくださいますようお願いいたします。

(吉井勇記念館)